

復興の礎に



広報しまだ

Shimada

2013
4
vol.178

目次 — CONTENTS —

- 2 復興の礎に⑨
- 4 市民病院の未来⑤
- 6 平成25年度市の予算
- 12 いきいき生活を応援します
- 14 市政あらかると：川根温泉ホテル起工／東北で島田茶ラッピングバス運行など
- 16 まちの話だいで：桜花爛漫／ハウス新茶初摘みなど
- 18 しまだ情報：こども医療費助成制度など
- 22 友好のかけはし
- 23 図書館だより
- 24 文化課通信
- 25 スポーツ INFO
- 26 暮らしのシグナル
- 28 けんこうナビ(5月)
- 32 便利帳／彩りもう一品
- 34 掲示板
- 36 しまだ人：田代高嘉さん

表紙 — COVER STORY —

牧之原公園で、市指定天然記念物のカタクリの花が咲き、紅紫色の絨毯が広がりました。



岩手県山田町の仮設住宅に訪れた春(山田町提供)

東日本大震災による災害廃棄物の広域処理が、早期に終了する見通しとなりました。市でも、岩手県からの災害廃棄物の受け入れを、3月18日に終了しました。

平成23年3月11日、三陸沖を震源とする東日本大震災が発生しました。島田市では一日も早い復興を願う「できる限り以上の支援を」と、呈茶慰問や職員派遣など、さまざまな形で東北への支援を続けてきました。

その一環として、被災地の災害廃棄物(木くず、以下同)を安全に処理することで、東北復興の支援ができればと考え、岩手県山田町と大槌町からの災害廃棄物の受け入れ方針を、平成23年12月13日の自治会長連合会の会合で説

明しました。以降、市長への手紙・Eメールなどで、賛成や反対などさまざまな意見が平成24年3月末までに1455件(同年4月から翌年3月末までは316件)も寄せられるなど、市内だけでなく、全国からも注目を浴びました。

12月24日には、当時の細野環境大臣が町内会長らに協力を要請。年明けには伊太地区や初倉地区で住民説明会を開催するなどして、災害廃棄物の安全性を訴え、受け入れへの理解を求めました。しかしながら、地元の皆さんからは災

【災害廃棄物受け入れに関わるこれまでの経緯】

- 平成23年11月10日／県市長会・町村会が災害廃棄物(木くず、以下同)受け入れ協力の共同声明を発表
- 12月13日／市長が自治会長連合会の会合で受け入れ方針を説明
- 12月24日／細野環境大臣が町内会長らに協力を要請
- 平成24年1月11日／伊太地区で住民説明会を開催
- 1月13日／初倉地区で住民説明会を開催
- 1月27日／市長が試験溶融の実施を表明
- 2月10日／岩手県山田町から災害廃棄物10tを搬出
- 2月15日／田代環境プラザで災害廃棄物の搬入を開始

害廃棄物の受け入れに関して「どんなに安全だといわれても放射能が怖い。将来の子どもたちのためにも受け入れないでほしい」といった懸念の声も上がりました。こうした中、市では2月に山田町の災害廃棄物の試験溶融を実施。空間線量率や放射線濃度を科学的に測定するとともに、市民の皆さんの手でも実測を可能にしました。

測定の結果、安全であることが証明され、3月には、伊太区自治会の皆さんから理解を得ることができ、災害廃棄物の受け入れを正式表明するに至りました。

「広報しまだ」でも、平成24年1月15日号から毎号、災害廃棄物や放射線についてのQ&Aや、受け入れ賛成や反対の声、さらには被災地からの感謝の声などを紹介。特に4月1日号では、放射線の性質や災害廃棄物の安全性などについて客観的にお知らせし「市が受け入れを表明したのは災害廃棄物であり、放射能汚染物ではありません。皆さんの正しい理解を得た災害廃棄物の処理は、被災者・被災地が復興者・復興地となるための一歩となります。あの日、心から願った東北の再生のため、その手を差し伸べてください」と訴えました。

その後も、市民の皆さんに対して、災害廃棄物の受け入れることの意義を訴え続け、5月23日から

災害廃棄物の本格受け入れを開始しました。災害廃棄物は、田代環境プラザで溶融。発生した飛灰(集じん器で集められた灰)を固形物に処理後、島田市最終処分場(阪本)へ埋め立てました。

島田市の岩手県山田町からの災害廃棄物受け入れは、平成24年2月16日の試験溶融から今年3月18日までの受け入れ終了までで、受入総量は628.39t、受入日数は合計で69日、コンテナ数で171個となりました。

▼測定結果などの詳細情報は、ホームページをご覧ください。

http://www.city.shimada.shizuoka.jp/kankyoplaza/jikani_info.html

| ①田代環境プラザ敷地境界・周辺施設空間線量率(単位:μSv/h) | | | |
|------------------------------------|---------------|---------------|------|
| H24/5/21(本格溶融前) | 5/24～H25/2/27 | 3/6・13・19・27 | |
| 0.06～0.08 | 0.06～0.09 | 0.07～0.09 | |
| ②田代環境プラザ処理灰の放射能濃度(本格溶融) | | | |
| 単位:Bq/kg | 5/24 | 6/27～H25/2/27 | 3/14 |
| セシウム134 | 42 | 不検出～44 | 14 |
| セシウム137 | 49 | 29～69 | 20 |
| ③一般廃棄物最終処分場敷地境界4カ所の空間線量率(単位:μSv/h) | | | |
| 5/21(本格溶融前) | 5/29～H25/2/27 | 3/6・13・19・27 | |
| 0.07 | 0.06～0.08 | 0.07～0.08 | |
| ④一般廃棄物最終処分場水(原水・放流水・地下水)の放射能濃度 | | | |
| 5/21(本格溶融前) | 5/29～H25/2/27 | 3/6・13・19・27 | |
| 不検出 | 不検出 | 不検出 | |

※①④は、地上高1mの測定値。

【市長からのメッセージ】

災害廃棄物の広域処理が早期に終了することは、全国自治体の協力の賜物であり、島田市もその一助を担えたことは意義あることと思います。これもひとえに、受け入れにご理解をいただいた市民の皆さまのおかげであり、深くお礼申し上げます。木くずの広域処理が終了しても、木くず以外の可燃物や不燃物等の処理はまだ残されていますので、一日でも早く、全ての処理が終了することを願っております。

島田市長 桜井勝郎



木くずを確認する佐藤伊太区自治会長(左)と市長

- 2月16日／試験溶融を開始
- 2月20日／3月14日／試験溶融した処理灰のサンプル展示(市役所ほか6カ所)
- 2月25日／自治会長連合会と市長、市議会議員など53人が山田町と大槌町を視察
- 3月12日／試験結果を公表
- 3月15日／東北地方と東京都以外の自治体では全国で初めて、災害廃棄物の正式受け入れを表明
- 3月25日／放射性物質と災害廃棄物の処理処分に係る講演会を開催(市民会館、約600人参加)
- 4月18日／大槌町の碓川町長が来島
- 5月23日／山田町の災害廃棄物の本格受け入れを開始。コンクリート塊が混入していたため一時中断
- 5月31日／岩手県環境生活部長らがコンクリート塊の混入で来島
- 6月6日／山田町の沼崎町長が来島
- 6月22日／ごみ処理施設のある伊太区自治会と「田代環境プラザでの災害廃棄物受入処理に関する伊太区自治会との覚書」を締結
- 7月3日／5日／市民58人が山田町と大槌町を視察
- 9月6日／山田町の佐藤町長が来島
- 10月18日／山田町の災害廃棄物の受け入れを再開
- 10月20日／処理灰の最終処分場への埋め立てを開始
- 平成25年3月18日／災害廃棄物の受け入れ終了